

弘岡中地区より



人のつながりを大切に

中村 春さん

家の前の畑で、ブロッコリーやキャベツ、レタスなどを少しずつ作っています。土日に同居している娘や孫が直販所「春の里」に出してくれます。他にも野菜苗を育てて近所の人に分けると、みんな喜んでくれるんですよ。

今年は直販所の役員をやったおかげでいろんな人と知り合ったり、売り出しイベントに参加して面白く過ごしました。若い人にも参加してもらって、直販所やイベントがずっと続いていくといいですね。

龍馬マラソン、4時間を目標

土居 雄作さん

80アールのハウスで妻とショウガを栽培しています。3年前から実習生をふたり受け入れています。時期をずらして植えて、3月から7月まで収穫します。色の白いきれいなショウガができるようにこまめに水や温度を管理しています。

趣味は、サッカーの高知ユナイテッドSCの応援とマラソン。ユナイテッドは米作りを通じて応援しています。龍馬マラソンは第1回大会から毎年出ています。4時間を目標に安定したペースで走り切りたいですね。

諸木地区より



高知地区

から こんにちは
今月の〇〇 気になる人

秋山地区より



中列右が長尾進さん、左に桜木由紀さん
後列は取材に訪れた料理研究家の宮本和秀さん

高知の太陽に魅せられて

(前列右) 河崎 基さん

(前列左) 千恵子さん

夫婦と従業員2人で25アールのハウスでキュウリを作っています。温かい土地で農業をしたくて、17年前に大阪から夫婦で移住して就農しました。高知の太陽と青空は何物にも代えがたいですね。春野はJAの新規就農者受け入れ体制ができていたので飛び込みました。今では私が指導農業士となって、研修希望者を受け入れています。

キュウリが休みの夏場は近所の稲刈りの手伝いをします。これが結構気分転換になるんですよ。

助け合いの農業をしたい

吉次 康裕さん

千葉県から妻の故郷の高知にきて就農しました。10アールのハウスでキュウリを作っています。独立して1作目なので、巡回に来てくれるJA指導員の栽培指導を基本にしています。

県内では私のような1ターン移住者の新規就農が増えています。移住者ならではの不安や悩みも出てきます。これから県内の移住者と交流を深め、悩み相談や情報交換などをして高知ライフを楽しみ農業に励んでいきたいと思っています。

仁ノ地区より



できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



一斉にスタートする1区のランナー

1 春野支所 第2回春野支所親睦駅伝競走大会 2連覇！ おめでとう西畑A！

新春を飾る親睦駅伝競走大会が、春野町を舞台に今年も行われました。組合員や地域の親睦と健康増進を目的とし、JA合併後第2回大会となります。

コースは春野町内6区間16.8kmで、今大会はオープン参加3チームを含む14チームやスタッフ、交通指導員ボランティアなど約150名が参加しました。

以下括弧内は大会当日時点の年齢・敬称略

前半
スタート時刻の気温は12.4℃、快晴でほぼ無風の中、14名のランナーがスタートしました。トマトの村の川瀬純司(33)を追うのは西畑A片山優俊(28)、2区の片山晋

後半
2位のトマトの村丁野仁(20)を36秒差でかわした西畑Aの片山亨臣(32)、2区では諸木A土居雄作(54)らに抜き返されたものの、6区で小森一樹(46)が区間1位でゴールし、後半タイム34分51秒で西畑Aが勝利を収めました。

結果
優勝はトータル1時間6分23秒で2位諸木Aに3分41秒の差をつけた西畑Aが2連覇を果たしました。また3位トマトの村、4位JA職員チームと健闘しました。



高知県知事賞を受賞した岩田卓雄さん

2 高知市 令和1園芸年度高知県園芸品展示品評会 花卉の部で高知県知事賞

2月1日(土)、2日(日)の二日間、高知ちばさんセンターにて令和1園芸年度高知県園芸品展示品評会が開かれました。この品評会は県産野菜・果実・花卉の品質と生産性の向上、安心・安全で鮮度の高い園芸品の安定供給を図り、県民、消費者に園芸農業への理解を深めてもらうために毎年開催されています。本年度、当JAからは14名が7品目を出品し、花卉の部で諸木地区の岩田卓雄さんのユリが高知県知事賞を受賞しました。

また、野菜の部は3名の生産者が受賞しました。また園芸部は屋外のテントで、トマトのパスタ入りサラダや春野産野菜を天ぷらにするなどして試食宣伝を行い、たくさんの方が訪れました。

【花卉の部】高知県知事賞：岩田卓雄さん ユリ
 【野菜の部】特別賞：川田拓生さん あき豆
 優秀賞：岡崎秀仁さん トマト
 優秀賞：尾仲和子さん 土佐甘とう

3 女性部 手作りおにぎり、豚汁でお接待



第2回春野支所親睦駅伝競走大会が開催された1月15日、女性部春野地区では、5カ所の中継所とゴールで選手やスタッフの接待を行いました。延べ17名の女性部員がスポーツドリンクやお茶、手軽に食べられるお菓子などを用意。特に人が多く集まる中継所では豚汁や手作りのおにぎりが用意され、走り切っておなかを空かせた選手たちに好評でした。豚汁をふるまった西畑支部の矢野由美さんは「準備は大変だけど、喜んで食べてくれるので続けたいですね」と笑顔を見せました。

4 営農渉外課 水稻栽培講習会に30名が参加



令和2年産の水稻栽培について1月21日、JA営農渉外課では講習会を開き約30名の水稻農家に参加しました。浪越城介営農指導員は田植えまでの苗の管理について「根張りを促進させるため水に浸けっぱなしにせず、ジョウロやホース等で灌水すること」と健全な苗作りの注意点を説明しました。

また、購買事業本部生産資材部より土づくりや稲の病気、雑草対策について肥料や農薬を適正使用するよう資料を用いて説明があり、30名の参加者はメモを取りながら熱心に聞き入りました。

5 高知市 IoTを用いた課題解決



課題解決に向けて意見を出し合う参加者

高知県は1月25日、農業分野に関するIoTモノのインターネット)のワークショップを開き、企業や研究者、学生、生産者らが栽培面や経営面での課題解決に向けて意見を交わしました。

キュウリ生産者のグループでは、定植から収穫までを月別に分解。作業内容を細分化し、労働力や経費などの施設園芸の課題を可視化してIoTを生かした解決策を見出しました。

県農業イノベーション推進課の新田益男チーフは「生産者の声を共有することができた。企業、学生、生産者と農業の未来を一緒に考え、技術革新につなげていきたい」と話しました。

6 JA 高知県 農家の大型特殊免許取得に向けて



県やJA全農、農機メーカーらでつくる高知県農業機械協会は、運転免許センターで大型特殊免許(農耕車限定)の技能検査を実施しました。

生産者からの大型特殊免許の取得支援に関する要望を受けて実施したもので、生産者ら8人が免許取得に向けて参加しました。

高知市春野町の生産者、川島晃さんは、今回8人の受験者の中で唯一の合格者。川島さんは「最近になって免許が必要だということを知った。そんな矢先に技能検査があることを知り、取得できてよかった」と、胸をなでおろしました。

技能検査は、2月分まで定員に達しており、3月以降については県のHPなどで改めて告知するとしています。

えいのう〜



鳥獣被害対策専門員からのお知らせ

カラス対策について

家庭用ごみの散乱防止対策

カラスが「ごみ収集所で生ごみを散らかす被害が多くあります。カラスはいたんエサとなるごみがあるとわかたら、次々に集まってくるので対策が必要です。市町村で決められた時間帯に「ごみを出し、防鳥ネットなどの目の細かいネットでごみを覆う等、防除を行って、「ごみ」をカラスに荒らされないように心がけて下さい。」



農作物への被害を軽減する為の対策

防除・追い払いに関しては圃場の周りにテグス(釣り糸)を1メートル間隔で張ったり、光るもの(CDや金色のテープなど)をつるしたり、トラロープ(黒と黄色のロープ)を張ったり、目玉模様の黄色い風船などを設置した場合、忌避効果が期待できるとされていますが、これは、キラキラ光るものや黄色い物にカラスが反応するといわれているためです。他、カラスの模型を吊るして脅す、ロケット花火で追い払う等がありますが、カラスの学習能力は非常に高く、一時的には効果は上がりますが、慣れが生じると、忌避効果はなくなります。

このように、慣れが生じてくると長続きしなくなるため、防鳥網などを使いカラスと農作物を物理的に遮断する方法が効果的です。

鳥獣被害対策は積み重ねです。今できることから始め、続けていくことが大切です。

鳥獣被害対策専門員 岡 真由美
090-3189-0373



ストップ! 農作業事故

農用運搬車の安全問題

人間工学専門家●石川文武

農村地域での生産物や資材の運搬手段はかつて歩行型トラクターに連結されたトレーラーが大半でした。

最近ではトラックが主となり、圃(ほ)場内、ハウス内、斜面、狭隘(きょうあい)道路などでは、農用運搬車(以下「運搬車」)が利用されるようになっていきます。台数は減りつつありますが、年間に25〜45人が事故で死亡しています。無傷、軽傷事故を含めると転倒・転落が50%弱、衝突が20%弱といわれています(革新セ調べ)。荷台から振り落とされる事故もあります。

転倒・転落事故の発生は道路が過半であり、下り坂が4割程度となっています。主原因は、脇見、速度超過、制動力不足が多いようです。脇見については機械面からのサポートは難しいですが、他の二つについては制動力強化、積載時を含めた低重心化、ROPS装着とシートベルトの改善が必要と考えられます。ROPS装着は有効な手段ですが、本体価格と比べてROPS部分のコストが高くなり、また、運搬車本体の構造強度見直しも必要となり、普及には時間がかかりそうです。

【事例1】80代の男性がダンプ式の乗用型運搬車で堆肥を微速で前進させながら圃場に散布していた。散布し終わったときにブレーキとアクセルを踏み間違えて暴走させ、前方のあぜを乗り越え、崖下に転落し、重傷を負った。

【事例2】牧草を積んで農道を走行していた。前日の雨で路面がぬかるんでおり、サイドスリップして路肩を踏み外した。荷台に差し枠を挟んで積載量をオーバリーしていたことも原因と考えられる。

対策……積載量を守り、路面の状況に合わせて速度で移動しましょう。



果樹の植え付け時の注意点

家庭で果樹栽培を楽しむ人が増えてきました。庭先や畑に植える人が多いようですが、果樹は植え付けが一度きりなので、植え付け時に注意することがあります。

高知農業改良普及所より

1. 植え付けの時期

植え付けには、適期があります。カキやイチジクなどの落葉果樹は、概ね11〜3月です。

また、温州ミカンやブンタンなどの常緑果樹は、概ね3月頃です。カンキツは寒い時期に行くと、枯死する恐れがありますので、注意してください。

2. 植え付ける場所

果樹は一度植えると、数十年同じ場所で栽培され続けるので、植え付ける場所選びは大事です。日当たりが良く、風通しが良く、水はけが良い場所を選んでください。日当たりが悪いと果実品質が悪くなりますし、水はけが悪く湿気が多いと、樹にも果実にも病気が発生しやすくなりますので、避けてください。

3. 土壌pHに注意

樹種により適正な土壌pHが確認されています。イチジクは中性を好み、

4. 樹種別の栽植密度

ブルーベリーは強酸性を好みます。主要な果樹の適正値は第1表のとおりです。その樹種に適した土壌pHでない場合、植え付けて始めは元気でも、根が弱り、葉の色が薄くなり、徐々に弱ってくる場合があります。植え付け前に、土壌pHを測定し、適正pHに調整することが必要です。

果樹は数年経つと非常に高く、大きくなる種類があります。その大きくなった姿をイメージして植えることが必要です。高密度で植えると、作業性や風通しが悪くなり病気が発生しやすく、果実に日が当たりにくくなるため果実品質が低下します。反対に、樹をまばらに植えると面積当たりの収穫量が少なくなります。最適な10a当たりの栽植本数は果樹の種類・品種などによって異なり、およその基準は第2表のとおりです。

第1表 果樹別の適正土壌pH

土壌pH	主要果樹
6.5~7.0	イチジク
6.0~7.0	ブドウ
6.0~6.5	ナシ、カキ、キウイフルーツ、ユズ
5.5~6.5	ウメ
5.5~6.0	モモ、ウンシュウミカン
5.0~5.5	クリ
4.5~5.5	ブルーベリー

注) 果樹栽培 実つきがよくなる「コツ」の科学 三輪正幸著 講談社より引用

第2表 栽植距離と10a当たり最終栽植本数のおよその基準

種類・品種	栽植距離 (m)	10a当たり本数
普通温州ミカン	5×6	33
早生温州ミカン	4×5	50
カキ	5×5	40
イチジク	4×5	50
ウメ	8×8	16
ブルーベリー (ハイブッシュ系)	1.8×3	185

注) JAよこすか葉山 営農だより2016年11月より引用



皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

今年はやや暖冬のようなので比較的過ごしやすいです。しかし冬用商品を扱うひとは大変だろうと思うこの頃です。

(春野町弘岡下 堀内さん)

▼冬とは思えない温かさでしのぎやすいですが、各方面に影響がでています。高知の農業も無関係ではありません。農業は自然と向き合っていることを実感しますね。

災害時に役に立つ調理方法を県内各地でワークショップのイベントとしておこなってはどうかでしょうか。特に男性が取り組みやすい料理がいいです。

(高知市介良 小松さん)

▼アイデアをありがとございます！南海トラフ地震で被害が予想されている高知県。災害時の助け合いとして調理の訓練をするのも大切なことですね。JA高知県で取り組む企画として提案します。

「こうぐり」が優秀賞をお受けになったことが我がごとのようにうれしいです。

(短歌2首)

喜びの端くれを担う者でいい 鮎を食しつゝ新年を祝う

正月の酢蕪に添えた唐辛子 真紅の味覚は喜びを誘う

(ペンネーム 野鳩)

▼おかげさまで「こうぐり」は「日本タウン誌・フリーペーパー大賞」の企業誌部門で優秀賞を受賞しました。高知県の農業や農産品の魅力が伝わってくると評価をいただきました。広報担当者一同、今まで以上に良い紙面づくりに取り組みます。

1月号の農業高校生の若い力、考え方、行動力など力強さに感激しました。私も積極的に高知の野菜を購入して応援したいです。

(高知市丸の内 野中さん)

▼普段はあまり訪れることのない農業高校や大学の取り組みを知って欲しくて特集にしました。ひたむきに農業に取り組み若い人をJAも全力で後押ししています！

手のひらほどの畑もなく、スチロールでレタス、パセリ、夏にはオクラ、プチトマトなどを育てて楽しんでいます。土も好き、草引きも苦になりません。

(春野町弘岡下 前田さん)

▼ニンニクも作っているという前田さん。お家で新鮮な季節の野菜を召し上がっていることでしょうか。直販所「春の里」には野菜苗のほかにたくさんのお花苗もあります。ぜひ足をお運びください。

イチゴのクレープ！なんとも美味しそうな赤の色。そして寒いときは甘さがぎゅっと締まり「さほのか」の最高に美味しい時期到来です。

(春野町弘岡下 片山さん)

▼イチゴの赤い色をみると元気が出ます！イチゴは品種によって形も味も違います。いろいろ食べ比べてみたいですね。

春野町西分で米作りをしています。主人と二人で3年目になります。昨年は雨にいじわるをされましたが、ご近所の知恵を借りながら素人なりに頑張ります。

(高知市針木 岡部さん)

▼長雨や台風などの苦労は米作りにつきものですね。ご主人と二人三脚で今年も豊作になりますように。

INFORMATION

お知らせ

きゅうり部会よりお願い
空きハウスを探しています
空きハウス活用しませんか

新規就農者独立への取り組み

きゅうり部会では栽培面積減少を防ぎ産地を維持することを目的に、平成24年より新規就農者を増やすため研修生として指導農業士の元で1年間研修を行い研修終了後は独立就農していただく取り組みを行っています。研修終了後きゅうりを栽培するにあたり中古ハウスを借りて栽培しています。使用していないハウスがある方、その様な情報をお持ちの方は営農渉外課へご連絡をお願いします。新規就農者へハウスを貸していただきますようお願いいたします。

研修終了後新規就農者数・栽培面積

平成26年 1名・20a	平成27年 3名・60a	平成28年 2名・30a
平成29年 2名・29a	平成30年 1名・15a	

【連絡先一覧表】

春野支所 総務課 894-3033 信用課 894-2203 共済課 894-3304 金融渉外課 894-3309 高吾サービスセンター(事故処理) 892-3605	営農経済センター 店舗課 828-6116 JAグリーンはるの店 828-6161 配送部門 828-6113 重油係 828-6115 Aコープはるの 894-2225 養蠶出荷・加工場 894-5424 はるちゃんのアイス屋 894-2760
営農経済センター 販売課 894-2222 営農渉外課 894-5660 購買課 828-6111 ビニール加工場 894-4264 農機センター 894-5290	JA子会社 (株)JAエナジーこうち 春野給油所 828-6212 ルミエールはるの (フリーダイヤル24時間) 0800-200-5911